

授業科目	特別研究 Special Study on Degree Thesis			担当教員	大島 啓 柳 智盛 野田 健 足立 孝子	大町 いづみ 梅野 潤子 韓 榮芝 裊 孝承		
展開方法	演習	単位数	8 単位	開講年次・時期	1～2 年／通年	必修・選択	必修	
授 業 の ね ら い								
<p>「特別研究」は、修士論文作成のために2年間行う授業である。</p> <p>修士論文作成の手順は、まず、社会福祉学各分野の研究動向と現段階について整理すること等を通して問題を発見し、その問題についての資料や先行研究を収集、精読・レビューすることにより、問題意識を明確化しテーマ設定を行う。次の研究計画作成段階では、テーマに係る仮説を設定し、その仮説を実証的根拠に基づいて論理的に展開するために、各種の研究方法の中から最もふさわしい研究方法を選び出す。こうした研究デザインを描いた後には、文献収集・文献レビューやデータ収集・データ分析等を重ねつつ論文執筆段階へと進み、最終的には当該分野に新しい知見をもたらすなどのオリジナリティある論文として書き上げていく。</p> <p>こうした一連の過程における必要事項（テーマ設定の仕方、仮説の立て方、研究デザインの仕方、様々な研究方法、文献収集の仕方、文献レビューの視点、データ分析の仕方、論文に求められるレベルとスタイル—オリジナリティとは何かなど—、論文構成、引用・図表挿入等の技術等）について指導を行い、また、執筆された論文に対しては推敲作業にかかわることにより、修士論文としての質を担保しうるものを書き上げることが、本科目のねらいである。</p>								
観点	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率	
関心・意欲 ・態度	社会福祉学各分野の研究動向に関心を持ち、自らの問題意識をもつことができる。				授業における討議への参加 中間発表会参加・報告		10% 10%	
思考・判断	当該分野に新しい知見をもたらす論点を考える。				修士論文 公開試問会報告・質疑		30% 10%	
技能・表現	論文執筆に必要な方法・技術を修得し、発表する。				修士論文		20%	
知識・理解	テーマに係るテクニカルタームを正しく理解し用いることができる。				修士論文		20%	
出 席							受験要件	
合 計							100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明								
<p>主指導教員から本科目「特別研究」の指導を受けるだけでなく、副指導教員からも十分に指導を受けるよう心がけるとともに、中間発表会（20%）・公開試問会（40%）には毎回必ず出席し修士論文（40%）に求められる条件や水準を注意深く学ぶことが求められる。</p>								
授 業 の 概 要								
<p>修士論文指導をその内容とするが、主指導教員により「定期的に指導する」「院生が求めたときに指導する」などスタイルも授業構成も様々であるので、主指導教員から指示を受けること。</p> <p>修士論文は、「手習い」により言わば「学問の作法」を身につけることなく書けるものではないので、特に後者の指導スタイルの場合には、積極的に主指導教員のところに足しげく出向いて指導を求めることが肝要である。</p> <p>これらの指導の過程において、必要な研究倫理教育を行うものとする。</p>								
教 科 書 ・ 参 考 書								
<p>教科書：論文テーマに応じて指示する。</p> <p>参考書及び論文：適宜、紹介する。</p>								
授業外における学修及び学生に期待すること								
<p>受講生は、自らのテーマに関する著書・学術論文をできるだけ多く読み、高度な知識の獲得を心がけるとともに、それら知識を駆使して社会福祉にかかわる事象を深く分析できるような力を身につけて欲しい。</p>								